



ゆいっこは民間有志による復興支援組織です。被災住民を受け入れる内陸部の後方支援グループとして、
 救援物資やボランティアの受け入れ、身の回りのお世話、被災地との連絡調整、
 傾聴など精神面のケアなど行政を補完する役割を担っていきたく考えています。
 設立当初は北上を本部とし、「支部制」をとっておりましたが、各拠点が独立して事業を行う体制に変更しました。
 これまでの連携は「ネットワーク」という形で残し、今後も「ゆいっこネットワーク」として活動していきます。

ゆいっこネットワーク

事務局	所在	代表	TEL	FAX
いわてゆいっこ北上	〒024-0033 岩手県北上市幸町1-30 北上市勤労青少年ホーム内	司東道雄	0197-63-5812	0197-63-5812
いわてゆいっこ花巻	〒025-0073 岩手県花巻市一日市4-21	高橋寛	0198-22-4748	0198-22-4748
いわてゆいっこ盛岡	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮5-10-20-120号棟	藤原 慧矢 (岩手大学院生)	090-4476-7083	
いわてゆいっこ雫石	〒020-0523 岩手県岩手郡雫石町根堀210-2 こかげ英会話	ハクセル美穂子	019-692-3436	019-601-4650
いわてゆいっこ西和賀	〒029-5514 岩手県和賀郡西和賀町湯川52-77-6 有限会社 武田工務店内	武田勝憲	0197-82-3041	0197-82-3044
いわてゆいっこ横浜	〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町43-1 キクヤビル3階	さかい学	045-863-0900	045-865-6700
いわてゆいっこ岩見沢			0126-23-3993	
いわてゆいっこ大槌	〒028-1105 岩手県上閉伊郡大槌町安渡2-1-10	川端理香		

twitter.....[iwate_yuicco](https://twitter.com/iwate_yuicco)

Blog.....<http://yuicco.com>

ゆいっこ

結(ゆい)とは、主に小さな集落や自治単位における共同作業の制度である。一人で行うには多大な費用と期間、そして労力が必要な作業を、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神で成り立っている。
 岩手県の方では名詞の後に「こ」をつけることがある。 ex. お茶っこ・お湯っこ・歌っこ・灯りっこなど



私たちは **いわてゆいっこ盛岡** です。

いわてゆいっこ盛岡 | 事務局 / 〒020-0866 岩手県盛岡市本宮5-10-20-120号棟
 TEL:090-4476-7083
 MAIL:morioka@yuicco.com
 代 表 / 藤原 慧矢(岩手大学院生)

「いわてゆいっこ」は岩手県内外の「ゆいっこネットワーク」で被災地復興支援を行い、「いわてゆいっこ盛岡」では主に宮古市の支援を担当しています。今までの主な活動内容は、清掃活動、無料バザーやワークショップのコーディネートです。特に清掃活動においては、第4日曜日を除く毎週日曜日に定期的に行うことで、現地の方とのコミュニケーションも深めたいと思っています。

今までの活動内容

- 支援物資の輸送 ●避難所間仕切り設置 ●宮古市内の清掃活動 ●日用品・喪服等の無料バザー
- 関東からのボランティアバスツアー企画 ●宮古市田老地区の「夢灯り」・「仮設住宅のベンチ」作りの手伝い 等

今後の活動予定

- 宮古市沿岸部の清掃活動を被災者のニーズに応じて引き続き行う。
- 仮設住宅の入居者への支援については、被災者同士を結ぶコミュニティ作り、孤立しないための活動を行う。
- ワークショップの開催、夏休みを利用した県外ボランティアの受け入れを行う。
- その他、被災者の雇用を生み出す仕組み作り(キャッシュ・フォー・ワーク等)にも取り組みたい。



活動報告

仮設住宅修繕作業

仮設住宅には多くの問題点があります。立地条件、構造の問題、また岩手の環境との適応…など。生活の不便の軽減につながればと思い、ゆいっこ盛岡では9月から新たな活動のひとつとして、仮設住宅での修繕作業を開始しました。場所は、宮古市の高浜地区です。

9/4(1回目)はそのひとつでもある、玄関周りの問題です。何が問題かというと、屋根の長さが足りていません。そのため、雨が降ると玄関が水浸しになり、冬は足元が凍りついて大変危険です。仮設住宅にはお年寄りも多く、足が悪い方にとっては玄関を出るのも一苦勞です。また、玄関を出て目の前に、向かいの家の窓があるので、家の中が丸見えになってしまうそうです。そのような状況を解消するため、屋根の隙間をふさぎ、玄関正面に板を取り付けました。これで雨風を防ぎ、また、ブラインドとなってプライバシー保護の役目も果たします。

今回の活動はゆいっこ盛岡としても初めてだったので、手さぐりで進められていきました。試行錯誤を繰り返し、午前中をかけてやっと1軒分が完成、という状況。その後は、一軒目のノウハウがあるので、40分程で作ることができました。今回は2軒で作業終了となりましたが、玄関



▲地元の方々と連携作業。慣れない手つきも作業が進むたびに頼もしくなってきました

周りの不備は高浜地区だけでも50軒あります。また、全国どここの被災地でも活用できるように考えられている仮設住宅は、岩手の環境に完璧にマッチしているわけではありません。冬を迎えるまでにやらなければならないことはたくさんあると実感した1回目の作業となりました。ちなみに、この日のお昼は宮古の方の手作り料理を頂きました。古代米のおにぎりとおうどん、おかわりもあって、お腹いっぱいまでおいしく頂きました。

そして、9/18(2回目)の高浜地区の仮設住宅での修繕作業は、5人での活動となりました。内容は、ひさしの取り付けです。人数からいくと、5~6軒が限界だと思っていたのですが、なんと28軒の修

繕を行うことができました。といいますが、宮古の方々のご協力があったからです。修繕に使う建材を用意して頂いている、佐々木さんとその息子さんが、ひさしをあらかじめ作っておいてくださいました。そのひさしを、私達が玄関に取り付ける、という流れです。ひさし作りから始めていたら、28軒なんてとても終わりません。何時間もかかる作業です。大変な作業を行って頂きまして、本当にありがとうございました。

残り8軒というところで時間切れとなり、活動は次回に繰り越されました。最後までやってしまったかった…という思いの中、「祝日だし、明日もやろうか」という提案で、無事ゆいっこメンバーで完了することができました。



▲完成!!これで雨が降っても大丈夫。玄関まわりの心配はなくなりました

このように仮設住宅では、同じような問題を多く抱えています。宮古市では、468軒(9/5時点)が確認されているようですが、実際は把握できていない場所もあります。個人でやられている方々も多くいらっしゃる

との事。でもお年寄りだけの世帯は…?それを考えると胸が痛みます。仮設住宅の修繕は冬を迎える前に終わらせてしまいたい、という目標を掲げておりますが、活動人数、資金面での問題もあり、難航しているのが現状です。

そんな中、嬉しいニュース。札幌の『カリタスジャパン』さんから、30万円の修繕用資材の購入資金を寄付して頂きました。これで目標にぐっと近づくことができます。本当にありがとうございました。岩手の冬はとても寒く、仮設住宅での生活はより厳しいものになります。そして、沿岸の風はとても冷たいです。少しでも良い生活環境にしたい!!現在の活動はここにつながります。

※その後、仮設住宅のひさしは、国によってつけられることになりました。今後は、次のニーズである「縁台の設置」に取り組んでいきたいと思っています。

雨でぬれる玄関 悩み解消
 盛岡市 宮古の仮設にひさし

▲9/5の岩手日報に、ひさし修繕の記事が載りました。仮設住宅の問題点を多くの方に知っていただくひとつのきっかけになったと思います

仮設住宅集会所のカフェボランティア+葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修（10/15～16）

10月15日(土)、宮古市内にて2チームに分けてボランティア活動、そして葛巻「森と風のがっこう」での宿泊研修をしてきました。東京から4名の有志を加え、1泊2日のゆいっこ盛岡のボランティアツアーです。宮古での活動内容は、「貝磨き」そして「仮設住宅集会所でのカフェボランティア」です。

まず「貝磨きボランティア」とは、宮古市の復興プロジェクト「かけあしの会」の方々が手掛けるプロジェクトです。アワビの貝殻を使ったネックレスや携帯ストラップ等を作るお手伝い。その名も「虹の祈り」プロジェクト。（※「かけあしの会」…被災者の皆様



▲同じ貝なのに様々な表情をみせてくれます。1つ1つ風合いが違うのが個性となり、本当にステキです

のために、スピードを上げて行動し「目となり、耳となり、口となり、共に動き考える」愛のある経済活動を進めるグループです。）ところで、アワビの貝の裏側って見たことありますか？パールホワイトをベースに緑、茶色、ピンクっぽい部分があり、確かに「虹」の様な色なんです。私達はその工程の中で、貝の表面を3種類の紙やすりと、その他のアイテムで削り、滑らかに表面を整える作業を行いました。この日は、秋田から外国人の英語の先生達も4名参加。はじめ、地元の皆さんは「英語が話せない」とちょっと焦った



▲手前のお2人は和弓とアーチェリーの経験者との事。話がとても盛り上がっていました

様ですが、皆さん流暢な日本語を話せる方々でした。私も含め、8割日本語でワイワイ作業を進めて行きました。また、東京からの参加者の方が英語が非常に堪能で、通訳をして下さり、本当に助かりました。また、地元の漁師さんは、機会を巧みに操り、黙々と作業をされていました。「かけあしの会」の皆さま、本当にありがとうございました。

さて、「かけあしの会」さんでは、その他色々な復興ギフトを作ってます。そしてこのたび、11/6の『もりあげ↑マーケット@盛岡肴町アーケード内』にて、これらの商品を購入するチャンスができました。同時に、貝磨きボランティアも体験することができますので、ぜひいらしてください。

そして別チームは、宮古市西が丘と近内の仮設住宅の談話室にお邪魔しました。それぞれの談話室には、ボランティアセンターの職員の方が1名ずつ当番で入られていて、普段は住民の方々の様々な対応をされている、との事。職員は地元の方でしたが、宮古市内に10数か所ある談話

室を毎日サポートする労力のせい、ボランティアセンター内でも連絡のやり取りがスムーズにいったいない部分もあるようでした。日々のご対応、本当にお疲れ様です。

西が丘の仮設住宅は、近くにスーパーがあったり、子どもが遊べる広場があったりと、環境としては他の仮設住宅よりは若干過ごし易い雰囲気ではありました。職員の方に1件ずつ声をかけて頂き、午前中は、集まって頂いた方々と現在の生活や震災のお話をしました。談話室の外でご年配の女性の方が、犬2匹と日向ぼっこをしており、談笑していたのですが…、震災直後、避難所に入った際、犬を避難所の入口に入れさせてもらい、3月の冷え込む寒さの中、一緒に入口で寝た時もあったそうです。何気ない会話をしているこの時間が、平和で穏やかな空間であることを実感しました。宮古の仮設住宅には、約半数に談話室や、自治会が設置してありますが、目の届きににくい方々への支援を続けていきたいと考えております。



◀白い元気な犬と丸太太ったつづらな瞳の老犬でした

その後、近内の仮設住宅へと移動。こちらはお年寄りではなく、3人の子どもが談話室にいました。お話を伺ったところ、普段から決まった子ども達が数名利用するのみ、ということで同じ談話室でも使用のされ方、使用する年代がそれぞれ違うことを知りました。私がこの談話室に入るやいなや男の子が近寄ってきて、瞬時に談話室はプロレスリングと化してしまいました。内陸の子どもに比べ、元々活発な子どもが多く、更に、生活などの環境変化により、ストレスが溜まっている部分もある様です。

老若男女問わない方々が利用することが考えられる談話室。そこに立ち入るボランティアも、様々な事を想定して対話の技術を高める必要を感じます。これから10年以上宮古市とお付き合いしていくであろう、いわゆるゆいっこ盛岡。今後の支援活動の在り方と方向性を考える上で、非常に貴重な経験をさせて頂きました。



▶同じ談話室でも、使用のされ方、使用される年代も様々…。私達ができることを考えるきっかけになりました

宮古での活動後、葛巻町の「森と風のがっこう」へ移動。携帯が繋がらない、別世界への入口となる長いトンネルをくぐるのは今回で2回目。その日の夕食は、「地域資源プロデューサーのイッシー」が作ったパン格拉ディシュカレーと、「森と風のがっこう」スタッフが作って下さったタイのグリーンカレーを、「右手で」頂きました。よくテレビで、指で食べ物を食べる映像を見たりしますが、指のみというのは全くの初体験でした。思ったよ



▲指だけで食べたカレー。指から伝わる美味しさいっぱい、心から「頂きます」と思えたひとときです

り、ご飯が熱い!!そして、慣れるまでちょっと食べづらかったけど、手で食べることから感じる美味しさがありました。指から伝わる食べ物の温度、質感、柔らかさ。普段は口に運んだ後の感覚しかありませんが、これに指からの感覚が加わり、食べ物を、より「食べ物」として感じとることが出来ました。食事の後は、談笑チームとお風呂チームに分かれました。空き缶を敷き詰めながら作った風呂釜は、とても保温性が良く温まります。

そして迎えた朝、裏山の散歩にでかけました。裏山には子供達がここで過ごした証が数々残されており、進化し続ける「森と風のがっこう」を感じました。その後、薪割りと味噌汁チーム、掃除と犬の散歩チーム、朝食準備チーム、それぞれが朝の仕事をしました。この仕事は序の口ですが、自然エネルギーを中心としたスローライフ。実はとても忙しく、やる事がいっぱいあります。朝食は、釜で炊いた粒の立ったご飯、具の入れ過ぎた味噌汁、ほうれん草のごま合せ、豆、そしてここで飼っている鶏の採れたて卵。「頂きます」に、感謝の意を込めて食事をする事は、普段ありませんね。朝食後はカフェでおいしいコーヒーを飲みながらゆっくりとした一時を過ごしました。

そして校舎に戻り、吉成さんのお話を伺いました。今回、普段自然エネルギーに興味を持ちながら勉強をしている方々が集まりましたが、その考えの延長線上、そこに吉成さんがいらした気がします。線と線が繋がった自分の考えと「森と風のがっこう」の体験。東京から来ているメンバーの中でも、その「出会い」に感動を覚えている方もいらした様です。



▲参加者の方々も自然エネルギーに興味をもたれていた、吉成さんとのお話はとても有意義な時間となりました

おはは、自分達で捏ねて伸ばした生地を釜で焼いた自家製ピザ。伸ばして、トッピングをのせて、焼くだけです。釜で焼く楽しさは、やってみると本当に面白く、そして焼きあがったピザは、人生最高のピザでした。



◀生地から捏ねて焼いた自家製ピザは、釜で焼くことでさらに美味しさ加わり、最高の出来でした

充実した時間を過ごし、再会を誓い、黍原さんは最初とするスタッフの方々に大きく手を振りながら、枯れ葉舞う「森と風のがっこう」を

後にしました。帰る途中、急遽予定になかった葛巻町の風車見学の為に、バスで山を登りました。強い風に吹かれて30mもある羽を回し続ける迫力ある風車は、圧巻の一言でした。大きな枠組みの中でのマクロの自然エネルギー、そして実生活まで落とし込んだスローライフの自然エネルギー。古代ギリシャの哲学者は言いました。「哲学とは実践である」。今回のツアーで深めた自然エネルギーへの更なる理解。これを実生活に落とし込んで初めて、「森と風のがっこうに行ってきた」と言える様な気がします。次回また、志を同じくする方々と、感動を共有したいと思います。

ここで、体験後に頂いた感想をお寄せ頂きましたので、ご紹介したいと思います。

★阪神大震災で3ヶ月ほど現地でNGOを立上げ運営した経験ありますが、当時と比べると今回の東日本大震災は、被害が広範囲に渡り、復興の速度にも地域格差ばらつきがあり、あわせて放射能汚染という問題もあり、長期間復興に要すると感じました。ただ共通しているのは、被災者の方々の自立、メンタルケアといった地元中心に長期的に関わるプログラムと、今回のような貝磨きや修繕などの作業でスポット的に対応できるプログラムに分けた方がよいと思います。ボランティアに関わる人には時間、経済、物理的な制約にあわせて、それに参加する動機も様々だからです。

★ボランティアの役割も次のステージに入っていて、今回のツアーは支援する側、支援される側という立場ではなく、一緒に何かを創ろうとする試みでした。実際に被災された方々からお話を伺い、どのような社会を作っていくか、大きく言う日本での在り方を捉えなおす機会となり、長く広い視点で考えていく必要性を感じました。ゆいっこの普通の人たちが、楽しみながら、でも実は皆熱い気持ちを持って活動しているのは、長くやっていく大事なポイントと感じました。

★今求められている自然エネルギーへのスムーズな転換という方向性にツアー企画が合っていたので興味深かった。いかに効率のよい省エネ製品を創り出し、いかに自然エネルギーの安定供給を創り出すか、このバランスが成り立ってこそ原発依存から脱却するきっかけになるのでは。

★個性豊かなゆいっこスタッフとの交流が楽しく、サークルのような雰囲気でした。岩手の人々の様々な想いと人柄、自然に触れ、同時に復興に向けての課題を考えさせられた2日間になりました。

東京からツアーに参加して下さった、温井さん、坂本さん、鹿野さん、及川さん、ありがとうございました。

▶参加者全員でパチリ。この中は小さな教室のようになっています



あねさんショップ

以前から募集しておりました「着物ハギレ」。ついに、宮古市でハギレを取りまとめている方より小物のショップ開店のお知らせが来ました。「今回の被害に対し全国から支援を頂いて感謝しております。でも、いずれは自立したいと願う今度の着物生地での小物作りと販売を始めました。10月1、2日の宮古市産業祭りで販売が始まります。」

お店の名前は「あねさんショップ」。「あねさん」とは宮古弁で女性の事です。因みに年配の方は、昔のあねさんと呼ばれます(笑)」

ということで、10月1日(土)～2日(日)に開催された「第17回宮古市産業まつり」に、あねさんショップ販売ブースの手伝いに行ってきました。

会場は宮古市民総合体育館。船の形をしたマリコープDORAの隣です。今回は復興の気持ちを込め、昨年までよりも大規模なお祭りになったようです。

いつも私達と一緒にボランティア活動をして下さっている地元「あねさん」の商品がずらりと並びました。全て手づくりです。出店場所にも恵まれ、午前中から盛況でした。

今回の商品は、以前よりゆいっこ盛岡のblogやツイッター等でもご支援をお願いしていた着物のハギレで作られた小物などです。例えば…メガネや通帳、何を入れてもOKな万能小物入れ等、ご支援頂いたハギレで作っています。そして、ティッシュケース。絹の着物の布を使用しているため、非常に高級感があり、思わずバッグの中にしのばせたくなる一品。プレゼントにも最適です。

今回一番人気だった商品は、箱ティッシュケースでした。お一人でいくつも購入されてる方もいらっしゃいました。その他、のれんなど生活空間に置くものが良く売れていました。また、巾着や花瓶置き、コースター、掛け軸(お気に入りの絵葉書を飾るミニサイズのもの)など多種多様な商品がお店を彩っていました。

本当に多くの方が産業まつりにいらっしゃってました。

知り合いを見つけては声を掛け合い、楽しそうに話す場面があちこちで見受けられました。また、外は快晴。とっても気持ちの良い日でした。ただのんびり外のベンチに座って、流れてくる緩やかな音楽を聞いているだけでも気分転換になりそうな感じがしました。

多くのご支援頂いた皆様、宮古のあねさんたちの頑張りで、予想以上に沢山の商品を買って頂くことができました。また今回の出店でお客さまからの反応も知ることができたのではないのでしょうか。

私達も、今回もまた達成感とともに一緒に楽しく時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。



▶ハギレがこんなにステキに変身。味がありますね

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(10/21現在)】 **¥747,601**

【支援金をいただいた方(8/27～10/21)】

近藤様、渡邊様、眞鍋様(京都府)、ロクハラ様、じゃじゃおいけん様、hina取引先作家一同様(岩手県)、舘鼻様(岩手県)、杉山様(岩手県)、八重樫様(岩手県)

支援金箱設置ご協力ありがとうございました!

- 京都市ハーレーダビッドソンカスタムショップTNT cycle様
- 志士の会2003-kyoto事務局様(京都府)

着物ハギレ支援ありがとうございました!

宮古市で手作り小物を制作販売している「あねさんショップ」さんにお送りしている「着物ハギレ」のご支援をいただきました。お名前を掲載させていただいている方以外にも、直接お送りいただいた方もいらっしゃいます。本当にありがとうございます!

上村様、山田様(京都府)、印藤様(三重県)、高橋様、斉藤様、伊藤様、近藤様、平山様、大芦様、神村様、眞鍋様(千葉県)、荒木様(京都府)、長野県飯田市社会福祉協議会様

活動記録(8/27～10/21)

月	日(曜日)	活動内容
9	4(日)	●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
	17(土)	●仮設住宅への敷きパッド配布 ●宮古秋祭りボランティア
	18(日)	●小岩井クラフト市ツアー ●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
10	1(土)	●宮古市産業まつりボランティア
	2(日)	●さんま祭り (宮古市近内雇用促進住宅)
	15(土)～16(日)	●宮古市近内仮設住宅集会所カフェボランティア&貝磨きボランティア+葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。振込は下記口座までお願いします。

岩手銀行 津志田支店 店番/070 普通預金
口座番号/2065288 口座名義/ゆいっこ盛岡支部

引き続き「着物生地」のご支援をお願いします。

「絹」の着物生地のハギレ、反物、着物や帯をお願いします。美品であれば新品でなくともよろしいです。おゆずりいただける方は、ゆいっこ盛岡までメールまたは電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。



活動報告

復興支援イベント「もりアゲ↑マーケット」開催 (11月6日 盛岡市肴町)

宮古を盛り上げていこうという熱い気持ちを、盛岡からも後押しできたら…というイベント、『もりアゲ↑マーケット』を、11月6日(日)10時～15時まで肴町アーケード内で開催しました。被災地の為に何かしたいけど、なかなか沿岸まで行く時間がなく、できないでいた、等という方には必見のイベントになったと思います。フリーマーケット、宮古の物産販売、ボランティア体験…、などホットライン肴町は、その名の通り、とてもホットになりました。

雨が降る中、どれだけの



▲上 想いを込めて前日に準備した餅まき用の餅。下 雨の中、沢山の方々にお集まり頂き、大盛況のイベントに、餅まきは、あっという間に終了。



皆さんに足を運んで頂けるのか不安もありましたが、午前中行った「復興祈念餅まき」は、予想を上回る盛況ぶり、イベント全体の盛り上げに寄与できたと思っております。あっという間に終わってしまい、スタッフもびっくりでした。餅まきのお餅は、前夜にゆいっこスタッフが一生懸命準備しました。スタッフで丸め、「復興祈念」の紙を添え、1つ1つビニール袋につめました。前日に用意した紅白のお餅は全部で350個!



▲上 初めての杵と臼での餅つき体験。おじいさまも嬉しそうに見守ってくださいました。下 4回目に登場した餅つきの神様。見よ、この姿!つき方には無駄がなく、杵を持つ手にも力が入ります。

餅つきは、スタッフを含め、杵と臼で餅つきをする経験が意外となかったりするので、初めてされるお子さんや熟練のご年配の方などみなさんで楽しめました。「よいしょ〜! よいしょ〜!」の掛け声とともに、みなさんと一体化し、その場の雰囲気はとても温かいものでした。このノウハウを基に、是非宮古でも餅つきをしたいものです。時間を分け、全

部で4回の餅つきを行ったのですが、4回目の餅つきでは、餅つきの神様?も現われ、大いに盛り上がりました。つき方、アドバイスの仕方、いでたち、どれをとってもかなり見ものでした。是非、ゆいっこ餅つき隊に加わって頂きたい、とスタッフ全員同意見。

天井には、宮古市重茂地区よりお借りした大きな大漁旗。着物ハギレで小物の制作・販売をされている『あねさんショップ』さん、貝殻でアクセサリを制作・販売されている『かけあしの会』さんにはわざわざ宮古から駆けつけて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。少しでも被災地のアピールに繋がってくれればと思います。『あねさんショップ』さんの作品は、ゆいっこホームページでも何回か紹介させて頂きましたが、本当に温かみのあるものばかり



◀『あねさんショップ』さんの前には、沢山のアクセサリ類が所狭しと並べられました。日々の生活にプラスすると、楽しくなりそう。

▶こちらは「貝磨き」コーナー。何度も紙やすりをかけ、携帯ストラップやネックレスに仕上げていきます。皆さん真剣な眼差しです。



◀手作りされた小物のバリエーションは様々で温かさが伝わってきます。スタッフも購入しました!!

野田村の被災した



▲こちらは「アクリルたわし」を作るコーナー。色とりどりのなかから作っていきます。立ち寄ってくださる方が多く、人気のコーナーでした。

です。ヘアアクセサリー、ブローチなど装いにアクセントをつけてくれるラインナップ。次回の販売も待ちきれません。ぜひ皆さまもご覧になってみてください。そういった小物の材料であるハギレの元となる、着物をほどこ体験コーナーもありました。また、『かけあしの会』さんの貝磨き体験コーナーでは、参加者のみなさんが熱心に作業されていました。そして手作り品の制作・販売をされている『チームレインボウ』さんのアクリルたわし作り体験コーナーでは、色鮮やかなものにあふれ、たわしにするにはもったいないくらいかわいいものばかりでした。このように、共に盛岡でも出来る復興支援の新しい形を、今回のイベントでご提示できたのではないかと思います。『チームレインボウ』さん、ご協力大変ありがとうございました。また一緒に活動できればと思います。

お仕事、ご家庭の事情で沿岸支援に行きたくても足を運べない方は、是非ゆいっこにご相談下さい。内陸にいても一緒に出来る支援を考えていきましょう。県外では、予想通りだんだんと被災

地への関心が薄れていく中、私達ゆいっこ盛岡は、これからも長く、様々な活動をしていきたいと考えています。そして、今回ご協力頂きました肴町商店街組合の皆さま、イベントに携わって頂いた皆さま、心より感謝申し上げます。イベントに先立ち、ポスター掲示、チラシ設置、またHPなどでわざわざ告知してくださったりと本当にありがたいことばかりで、温かいお言葉も沢山頂きました。こうして皆さま方とつながりながら、今後も活動をしていきたいと考えております。

そして今回のフリーマーケットの出店料は、全額ゆいっこの活動資金とさせて頂きました。当日皆様から頂いた支援金と共に、有効に活用させていただきます。心より御礼申し上げます。

●ゆいっこ盛岡支援金ボックスへの募金／7,683円

●フリーマーケットブース料／13,000円

●ゆいっこ盛岡手ぬぐい売り上げ／2,000円

●ゆいっこ盛岡フリマ売り上げ／1,690円(ゆいっこ盛岡フリマは、ボランティアスタッフの吉田由紀子さんに出品のご協力をいただきました。ありがとうございました。)

▶スタッフ長谷川が前日より仕込み、つくたてのお餅とベストマッチでした。長い行列が何度もできました。



▲当日は支援コーナーの他に、多くのフリーマーケットスペースも。慣れていらっしゃる方が多く、まるでお店が開店したようでした。また、被災地支援団体「マザーバード」さんのフリマブースでは、バステルシャインアートのワークショップも開催されました。



復興まつり (11月3日 宮古市)

11/3(木)に、宮古市のコープDORAにて、いわて生協さん主催の「復興まつり」がありました。そこに出品された宮古の『あねさんショップ』さん、田老の『ゆいとり』さん販売ブースのお手伝いをして参りました。『あねさんショップ』さんは以前ご紹介させて頂きましたが、『ゆいとり』さんも、『あねさんショップ』さん同様、地元の方々が心を込めて手作りした小物類を販売しています。

10月の「産業祭り」をコンパクトにしたようなイベントでしたが、相変わらずの盛況ぶりでした。ステージでの歌や踊り、モチまき…。また、様々なお店が出店しており、どこも賑わっていました。『あねさんショップ』さん、『ゆいとり』さんも、客足が途切れる事もなく、たくさんの人達に見て、買って頂けたと思います。また、隣のブースでは『かけあしの会』さんの携帯ストラップや復興ギフの展示販売もしておりました。

10月の「産業祭り」といい、今回の「復興まつり」といい、市民全員で宮古を盛り上げていこうという熱い気持ちを感じ取ることができました。



▲『あねさんショップ』さんの販売ブース。お客さまの反応がダイレクトに返ってくるので、お手伝いの私たちもドキドキしました。



▲イベントブースはもちろん、ステージでのパフォーマンスも大盛り上がりでした。



▲「復興まつり」はみんなで盛り上げていこう、という気持ちが伝わってくる熱いイベントでした。

土葱の配布 (11月13日 宮古市近内雇用促進住宅)

11/13(日)、土葱を収穫し、宮古の近内雇用促進住宅で配る、というボランティア活動を行いました。この支援物資である土葱は、九戸村の関向竹志さんからご提供頂いたものです。当日にまず九戸村で葱を収穫をし、そのまま宮古へ向かう、という弾丸ツアーとなりました。



▲広大な葱畑に驚きました。生でかじってみたら甘くておいしかったです!

九戸村では、地元の方々と収穫しながら袋に積み、70袋強をバスに乗せました。ゆいっこメンバーより、葱袋の方が座席の割合を占めていたので、外から見たら不思議な光景だったと思います。宮古でいつもお世話

頂いている、コーディネーター須賀原さんのお姉さまのご自宅で、お茶と南部せんべいを天ぷらで揚げたおやつを頂きました。とても美味しかったです。途中、岩泉で昼休憩を取り、一路宮古へ。バスの中は葱のにおいで強烈でした。



▲いつもお世話になっているOKバスさんのバスに積み込まれた葱の山。スタッフは何処?!

宮古に着いて、何度かお邪魔している近内

仮設住宅の縁台作り (10月22日 宮古市高浜地区仮設住宅)

私達ゆいっことは、仮設住宅に住んでいらっしゃる方々からの要望もあり、9月より「ひさし取付け」の修繕作業をメインの活動としてやってきました。しかし、この作業は国の予算で取り付けられることが決定し、私たちの活動も方向転換。次のニーズである「縁台の設置」へと取り掛かりました。仮設には多くの問題点があり、住んでいる方々にしかわからない不便があります。ひさしを作っている間に住人の方に伺ったのですが、仮設の窓側には物干しが付いているようですが、物干しの位置が悪く、洗濯物を干す際に不便なのだそうです。そこで「縁台」という案が出されました。活用用途も様々で、時には踏み台として、また時にはベンチとして…。そういう想いを込め作らせて頂きました。

10/22の縁台作りには、岩手日報労働組合さんの呼びかけにより、各地の新聞社の方々をはじめ、多くの方々に参加頂きました。



▲試行錯誤しながらの作業。皆さんが喜んでくださることを願い、一生懸命作らせて頂きました。

ゆいっこ盛岡のメンバーは、ひさし作りの経験もあるので、工具の扱いにもだいぶ慣れ、テンポよく作業を進めることができました。初めて参加される方にとってはやはり難しい点もあったようでした。この様子を見て、始めた当初の私たちもこんな

積んできた葱をメンバー全員でお渡ししました。皆様、葱を持っての訪問に驚かれていましたが、とても喜んで頂き、雨の中収穫した甲斐がありました。また、九戸の方々の気持ちと一緒に運べたかと思うと、嬉しいです。

帰りは葱のにおいが残るバスに揺られ、無事に帰って参りました。おかしなもので、到着する頃にはそのにおいにも慣れてしまっていました。急激な気温の変化もあり、これから風邪なども流行ってきますが、葱を食べて頂き、寒い冬を乗りきってほしいと思います。



▲メンバー全員で葱をお配りしました。皆さん、あまりの量に驚かれておりましたが、とても喜んでくださいました。



▶須賀原さんのお姉さまのご自宅でしばし休憩。南部せんべいを天ぷらで揚げたおやつが絶品。ごちそうさまでした。

感じだったな、と感慨にふけりました。あれから2カ月…。チームワークも、完成度も上がったように感じます。後半は、皆さんだいぶ慣れてこられたようで、結局この日出来上がった縁台は全部で12台。これらを高浜の仮設に設置して、今回の活動は終了しました。

修繕活動を行う際に、宮古の佐々木さんにはいつも大変お世話になっております。建材の用意、ひさしや縁台の設計、作製の指導、そして、お昼ごはんの差し入れまで。この活動は私たちだけでは出来ず、多くの皆様のご協力があるからこそ今まで続けられています。今回も、遠くは関西から参加して頂き、こうやって支援の輪が広がり続けてくれたら、と心から願っております。

その後、11月20日をもって、高浜地区の仮設住宅に必要な縁台35台を設置し終わりました。しかし他地区の仮設にも同様の問題はあります。今後も現地の方々とコミュニケーションを大切に、的確な支援につなげたいと思います。



▲地元の方々、そして多くのボランティアの方々のご協力のもと完成した縁台。気持ちもひとしおです。

クラフト市ツアー (9月18日 雫石町小岩井)

9月の3連休は、フル回転活動のゆいっこ盛岡でした。以前から企画・募集していた小岩井CRAFT市ツアーを実施しました。このツアーの対象者は、宮古市にお住まいの方々です。blog等での募集の呼びかけは一切せず、現地でのチラシ配布でのみ募集



▲全国各地から集まってきたクラフトマンたちの作品が森の中に並び、素敵な空間でした。

集しておりました。なかでも田老のグリーンピア内の仮設住宅にお住まいの皆さんには非常に多くご参加頂きました。お声掛けをして下さいました世話役の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

朝7時にグリーンピアを出発。いつもお世話になっている岩手県北バスさんの大型バスに定員いっぱいに乗って、一路雫石の小岩井農場へ。「小岩井CRAFT市」とは、タイマグラの安部智穂さんが主催されていて、全国各地から沢山のCRAFTマンが集まります。会場は、小岩井のどんぐりコロコロの森です。森の中に所狭しとタープや TENT を張って出店されます。陶器、ガラス、木工、草木染めの布、竹細工、フェルト小物など、毎年この時期に開催され、多くの方々が訪れる秋らしいイベントです。

今回は、このイベント受付横に「チャレンジショップ」が特設されておりました。ここには被災地の方が作られた手作りの小物や、出店している作家さんがチャリティー商品が並んでいました。今回、田老の方々が作られた商品を、ここに出品するべく届けることが1つのミッションでした。また2つ目の目的としては、手仕事で収入を得ていきたいという想い

です。多くのレベルの高い作品が並ぶこのイベントから、今後の商品を作るにあたり、糸口をみつけれたら、という気持ちもありました。そして、大自然の中で美味しい空気を吸って頂き、ひと時でも癒しの時間を持つことこそが、家庭のお母さん達が元気でいられることにつながりますよね。何をしたわけでもありませんが、もう少し一緒に居たくなるような居心地のよいツアーでした。



▲田老のお母さん達によって作られた作品と作家さん達のチャリティー商品が並べられた「チャレンジショップ」の様子。今後の作業につながっていくことを心から願っております。

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(11/16現在)】 **¥967,579**

【支援金をいただいた方(10/22~11/16)】

三浦様(岩手県)、カニングハム様(秋田県)、六波羅様(東京都)、(株)ブーン/高品様と自力整体教室の生徒様(東京都)と募金にご協力いただいた皆様(和田様ご夫妻、村田様、江花様、久保田様、結城様、高科様、大久保様、田上様、山崎様)、もりアゲ↑マーケットにてフリーマーケットに出店・出品いただいた皆様と募金にご協力いただいた皆様、小岩井クラフト市にご参加いただいた皆様(岩手県)、支援金BOX(設置ご協力/東京青果様、松作(株)様、岩手中央青果(株)様、Heg様、じゃじゃおいけん様、ハーレーダビッドソンカスタムショップTNT cycle様、志士の会2003-kyoto事務局様)にご寄付いただいた皆様

<着物生地>おゆすりください

宮古市の「あねさんショップ」では、着物のハギレを使って小物を作り販売しています。その材料である「絹」の着物生地のハギレ、反物、着物や帯のご寄附をお願いしています。美品であれば新品でなくとも結構です。おゆすりいただける方は、ゆいっこ盛岡までメールまたは電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

活動記録(10/22~11/16)

月	日(曜日)	活動内容
10	22(土)	●仮設住宅の縁台作り、着物ほどこ(宮古市高浜地区)
11	3(木・祝)	●「復興まつり」手伝い(宮古市)
	6(日)	●復興支援イベント「もりアゲ↑マーケット」開催(盛岡市肴町)
	13(日)	●土ねぎ配布(宮古市近内雇用促進住宅)

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。振込は下記口座までお願いします。

◆岩手銀行 津志田支店

店番/070 種目/普通預金

口座番号/2065288 口座名/ゆいっこ盛岡支部

◆ゆうちょ銀行

口座番号/6602251 記号番号/18350

口座名/ゆいっこ盛岡支部

◆郵便振替

番号/02200-1-110096 加入者/ゆいっこ盛岡支部

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。